☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 輝く地域の星となれ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

報道で見る氷上西高　2017

丹波新聞　平成２９年９月１７日（日）

青垣中と氷上西高

合同で吹奏楽練習

18日のステージに向け、合同練習に励む氷上西高と青垣中の生徒たち＝氷上西高で

部員10人で舞台へ

18日、氷上で祭典に参加　「互いに好影響」

連携型中高一貫教育校の氷上西高校吹奏楽同好会（大前葉月部長）と、青垣中学校吹奏楽部（小池紗代部長）が18日午後1時半からゆめタウンポップアップホールで開かれる「ゆめタウン音楽の祭典」に合同で出演する。部員数が少ない両校は今年度から一緒に舞台に立っている。イベント前には、青垣中の生徒が氷上西高を訪れ、練習も共に行っている。4曲を予定している。（足立智和）

氷上西高の同好会は昨年度設立されたばかり。部員は7人。青垣中の部員は4人。7月の「道の駅のタベ」で初共演し、今回が2度目になる。

フルート1人、アルトサックス3人、テナーサックス2人、ユーフォニウム1人、トランペット2人、ブロッケン1人の10人編成で出演する。氷上西の高橋信之校長がバリトンサックスで、同校講師の中澤理恵さんがクラリネットで演奏を支える。

普段はそれぞれの学校で部活をし、イベント前には合同部活になる。

青垣中吹奏楽部OGで、同高3年の堀郁香さん（フルート）は合同の舞台を「演奏の幅が広がって楽しい」と言い、同部OGで同高1年の植野真心さん（アルトサックス）は「遠慮があり、教えるという所まではいかないけれど、演奏で引っ張っていきたい」と話した。

青垣中の小池部長は「普段の練習は人数が少なく、音が分かりにくい所がある。高校生は頼りになってすごくいい。本番では失敗せず、役割を果たしたい」と気持ちを引き締めた。

高橋校長は「音に厚みが出るのもさることながら、高校生が上級生の自覚を持っているのが分かる。小規模校で希薄になりがちな、上下の人間関係を学ぶ機会になっている」と言い、青垣中の内田順子校長は「高校生の姿を見ることで、自分の将来の姿を感じられる。氷上西の生徒は生き生きしていて、中学生に好影響を与えてくれる」と話していた。

台風18号の影響でイベントは変更、中止になる場合がある。問い合わせは、タンバンベルグ（０７９５・８２・８６００）。